

所属 英米学科	職名 准教授	氏名 エグリントンみか	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
---------	--------	-------------	------------------------

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>-ハンドアウト、ワークシート、パワーポイントの利用</p> <p>英語ニュースや演劇の視聴覚資料などの多用</p> <p>-確認用小テスト</p> <p>-ディスカッション</p> <p>-プレゼンテーション</p> <p>-ミニ演劇公演</p>	2012年 4月～	<p>授業の内容に沿って、ハンドアウト、ワークシート、パワーポイントなど適切なメディアツールを選んで使用した。</p> <p>視聴覚資料を多用し、文字情報のみとしてでなく、視聴覚を研ぎすましてニュースの臨場感やカットの仕方、またいかに戯曲が舞台化・映像化されたのかを実際に体験してもらった。</p> <p>時折、簡単な小テストを行い、学生が予習しているかどうか、また予習時の理解度を確認した。</p> <p>学生同士がペア、小グループに分かれてディスカッションを行い、その結果をクラス全体に発表させることによって、思考能力とプレゼンテーション能力を高めることを意図した。</p> <p>上記のクラス内でのプレゼンテーションに加えて、自分の興味のあるニュースを選び、1週間ほど前にはその記事を提出し、自分の考えを3分程度でクラス全体に伝えることにより、世界情勢に対する知見を広めると同時に、自分の考えを効果的に伝える方法を探らせた。</p> <p>授業中に役を構想しながら戯曲を読むだけでなく、学期末には演出家、音響、照明、小道具、役者から成るミニ劇団に分かれ、戯曲の一部を選択し、実際に演じてもらった。戯曲をいかに舞台化する作業を通して、戯曲を読む、暗記するだけでなく、いかにそれを身体化し、観客に見せるかを通して、戯曲世界に対する理解を深化させた。</p>

2 作成した教科書、教材、参考書 ハンドアウト、ワークシート、パワーポイント		授業の内容に沿って、ハンドアウト、ワークシート、パワーポイントなど適切なメディアツールを選んで使用した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		授業内外で演劇公演、映画、芸術祭の紹介を織り交ぜたり、チラシなどを配ったり、実際に公演に招待したりし、より英語と演劇に親しんでもらうきっかけを提供した。 語劇祭の公演だけではなく、稽古に立ち会い、アドバイスをを行った。

II 2009 以降を中心にした主要研究活動 (抜粋)

著書・論文等の 名 称	単著・共 著の別	発行または発表の年 月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<英語論文> 'Deguchi Norio, The Journey of the Shakespeare Theatre, 1975-2005'	単著	2008	London: Routledge,	<i>The Routledge Companion to Directors' Shakespeare.</i> Ed. John Russell Brown	54-68
Interview with Satoshi Miyagi, Ku Na'uka's Hamlet	単著	2011	<i>Asian Theatre Journal</i> 28.1		234-43
'Metamorphoses of "Shakespeare's Lost Play": A Contemporary Japanese Adaptation of Cardenio'	単著	2011	<i>Shakespeare</i> vol.7.no. 3 (London: Routledge)	Special Issue on Shakespeare and Fletcher Ed. Clare McManus and Lucy Munro	375-42

Performing 'Women' in 'Asia', Ong Keng Sen's Shakespearean Trilogy: <i>Lear</i> , <i>Desdemona</i> and <i>Search Hamlet</i>	単著	2012	<i>Theatre and Film Studies 2011</i> (Tokyo: Waseda University, 2012)		95-121
Performing Constraint through <i>Yojohan</i> : Yamamoto jijosha's <i>Titus Andronicus</i> .	単著	2012	<i>Shakespeare Studies 49</i>		12-28
<日本語論文> 「中東の<バロック悲劇> スレイマン・アルバッサーム作『アル・ハムレット・サミット：政治的アラベスク』試論」	単著	2009	『映像演劇学 2008』(早稲田大学演劇博物館)		261-276
「'Re-orienting' Shakespeare ふたつの夢幻能 『オセロー』を中心に」	単著	2010	『シェイクスピア上演研究の現在』(風媒社)	小林かおり編	79- 93
「『パフォーマンス研究』の歴史」	単著	2010	『シェイクスピア上演研究の現在』(風媒社)	小林かおり編	145-63
「ヴェローナからの呼びかけ—『ロミオとジュリエット』における愛と死のパフォーマンス」	単著	2010	『映像演劇学 2009』		21- 31
「リボンと血痕—『タイタス・アンドロニカス』におけるラヴィニア	単著	2011	『映像演劇学 2010』		21-44

の表象]、『映像演劇学 2010』					
「連立政権下の緊縮政策という『暴動』の中で、英国社会と演劇界の現在現在形」	単著	2011	『シアターアーツ』45 (AICT 2011年 秋号)		88-94
「トップ・ガールズのフェミニズム —— キャリル・チャーチルの仕事をめぐって」、	単著	2011	『愛と戦いのイギリス文化史 II』、慶応義塾大学出版会	川端康雄ほか編	187-201
「『ブラック・ウォッチ』に見る『スコットランド』のアイデンティティ」	単著	2011	『愛と戦いのイギリス文化史 II』	川端康雄ほか編	334
「劇場文化のポリティクスと英国地方都市 ——ブレア政権の多文化主義から‘Broken Britain’へ」	単著	2012	『イギリス映画と文化政策 ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』、慶応義塾大学出版会	河島伸子、大谷伴子、太田信好編	49-68
「‘The loss of our desire!’ <i>The Two Noble Kinsmen</i> における欲望とその喪失」	単著	2013	『神戸外大論叢』第63巻		95-105
<日-英翻訳> Juro Kara, <i>Two Women</i>		2009	Shizuoka Performing Arts Centre, Shizuoka (SPAC)	directed by Satoshi Miyagi	surtitle
Olivier Py and Oriza Hirata, <i>Epistles to Young Actors a</i>		2010	SPAC	directed by Satoshi Miyagi	surtitle
Shakespeare for Children, <i>Cymbeline</i> ,		2010	A S I A Asian Shakespeare Intercultural Archive, www.a-s-i-a- web.org	directed by Satoshi Miyagi	surtitle

Noda Hideki's <i>A Midsummer's Night Dream</i>		2011	SPAC A SI A Asian Shakespeare Intercultural Archive, www.a-s-i-a-web.org	directed by Satoshi Miyagi	surtitle
Tadasu Takamine, <i>Japan Syndrome</i> (Kyoto and Mito versions)		2012	Art Tower Mito		surtitle
Miyazawa Akio, <i>Motor Cycle Don Quixote</i>		2012	Red Brick Warehouse, Yokohama	http://www.fas.harvard.edu/~cardenio/japan-home.html	Production material
<英日翻訳> スレイマン・アルバッサーム『アル・ハムレット・サミット —政治的アラベスク—』		2004	『舞台芸術』07号（月曜社 2004年12月） 東京国際芸術祭 於パークタワーホール 字幕台本 シアター・テレビジョン製作 DVD 総合劇集団俳優館アトリエ公演の会 vol.4, (ワークショップ構成・演出 宮崎真子)	263-99	出版、字幕、戯曲台本
スレイマン・アルバッサーム『カリラ・ワ・ディムナ —王子たちの鏡—』		2006	第12回記念東京国際芸術祭 於にしすがも創造舎		
ステファン・グリーンブラット&チャールズ・ミー『カルデニオ——シェイクスピアの失われた戯曲に触発されて——』		2006	於横浜赤レンガ倉庫	http://www.fas.harvard.edu/~cardenio/japan-home.html	戯曲資料

メラニー・ウィルソン、 『シンプル・ガール』		2010	ブリティッシュ・カウンシル・ 東京見本市共催、於東京芸術劇 場		字幕
ダンカン・スピークマ ン／サトルモブ、『あた かも最後の時であるか のように』		2010	ブリティッシュ・カウンシル・ 東京見本市共催、於東京芸術劇 場		戯曲台本
アントニー・ハンプト ン／ロトザザ、『ぐるぐ る』		2010	ブリティッシュ・カウンシル、 東京見本市 TPAM(Tokyo Performance Arts Market)共 催、於座・高円寺 Camden People's Theatre, London.		戯曲台本
オン・ケンセン／シア ターワークス、『ハム レットを探せ』		2010	A S I A Asian Shakespeare Intercultural Archive, www.a-s-i-a-web.org		字幕
ピーター・ブルック& マリー＝エレーヌ・エ スティエンヌ		2011	『Why Why』 静岡舞台芸術センター(SPAC)	ピーター・ブルック演出	字幕
現代伝説劇場（台湾）、 『欲望の城』		2011	A S I A Asian Shakespeare Intercultural Archive, www.a-s-i-a-web.org		字幕
アンドレアス・ホーベ ルト 作、ポストシアタ ー『ヘヴェンリーベン トー』		2012	青山円形劇場		字幕
<演劇劇評、書評、イン タビュー(抜粋)>		2008	New Delhi, Oxford UP: 2006	www.performanceparadigm.net	

Book review, <i>Another Asia: Rabindranath Tagore and Okakura Tenshin</i> by Rustom Bharucha			<i>Performing Paradigm</i> 4		
Theatre review, 'The Cat on a Hot Tin Roof'		2010	London Theatre Blog	www.londontheatreblog.co.uk	
Book review, <i>Drama / Theatre / Performance</i> by Simon Shepherd and Mick Wallis (Oxford: Routledge, 2004)		2011	<i>Studies in English Literature</i>	102-07	
Theatre review, 'A <i>Midsummer Night's Dream</i> adapted by Hideki Noda, directed by Satoshi Miyagi'		2013	<i>Shakespeare Studies</i> 50	47-49	
<エッセイ、コラム、演劇批評、公演プログラム> (抜粋) 'Re-orienting Shakespeare'		2009	'フェスティバル・トーキョー09 公式ウェブサイト	http://festival-tokyo.jp/09sp/program/othello/contribute.html	
「2009年ローレンス・オリヴィエ賞」		2009	『シアターガイド』(モーニングデスク)	154-55	

「ウモジャ」、「イギリス・アングラ演劇事情 Part1 シヤント」	2009	『シアターガイド』（モーニングデス	168、176-77
「イギリス・アングラ演劇事情 Part2 パンチドランク、スラング・ロウ」	2009	『シアターガイド』（モーニングデス	174-75
「2010年ローレンス・オリヴィエ賞」	2010	『シアターガイド』（モーニングデス	158-66
「[Re-orienting Othellos in East Asia: 東アジアにおけるシェイクスピア上演の新たなる方向性]」	2010	『フェスティバル／トーキョー09ドキュメント』	90-91
「現代英国式『ニューライティング』の生まれ方」	2010	『シアターガイド』（モーニングデス	170
「ジョージア演劇への旅」	2011	『シアターガイド』（モーニングデス	146-47
「2011年ローレンス・オリヴィエ賞」	2011	『シアターガイド』（モーニングデス	158-66
「野田秀樹潤色『真夏の夜の夢』の翻訳（不可能性について）」	2011	『芸術文化』（静岡県文化芸術センター）	4-8
「『ブラック・ウオッチ』に見る『スコットランド』のアイデンティティ」	2011	川端康雄ほか編『愛と戦いのイギリス文化史 II』（慶応義塾大学出版会）	334
「シェイクスピア・オリンピック in London」	2012	『シアターガイド』（モーニングデス	145-46

「2012年ローレンス・オリヴィエ賞」	2012	『シアターガイド』（モーニングデスク）	145-46	
オリヴィエ・ピイの『＜完全版＞ロミオとジュリエット』 ^{タナトス} 死へと失踪する生 ^{エロス} ／性『芸術文化』8	2012	『芸術文化』	4-6 http://www.spac.or.jp/culture/?p=3	
<英語学会発表> ‘Reading Creativity in the “Misapplication” of Othello in Japan and Korea’	2009	Performance Studies international #15 (University of Zagreb, Croatia)		
‘Case Study of Ninagwa <i>Twelfth Night</i>	2009	British Shakespeare Association’ (London, King’s College).		
‘With sorrow I embrace my fortune’: Political Aesthetics in Satoshi Miyagi’s <i>Hamlet</i>	2010	Worldwide Hamlet in Performance and Translation, National Theatre of Craiova, Romania (Craiova, National Theatre).		
‘Satoshi Miyagi and Political Poetics in <i>Hamlet</i>	2010	European Association of Japanese Studies (SOAS, University of London).		
‘Geo-politics of Lithuanian Hamlets’, Tbilisi International	2010	Festival of Theatre (Citadel Hotel, Tbilisi, Georgia		
‘Performing Constraint in	2011	CHIME (Royal Holloway, University of London).		

Yo-Jouhan: Yamanote Jijousha's Titus Andronicus'				
'Memories of War and rape: Reading Yamanote Jijousha's Titus Andronicus Production in Sibiu, Romania',		2011	'2000-2009: A Decade of Shakespeare in Performance', the 9 th World Shakespeare Congress (Prague, Czech Republic).	
'Performing <i>A Midsummer Night's Dream</i> in Post-March 2011 Japan'		2012	6 th NTU Shakespeare Forum (Taipei, Taiwan)	
Adapting to Post-March 2011 Japan: <i>A Midsummer Night's Dream</i> at Shizuoka Performing Arts Centre'		2012	International Federation for Theatre Research (Santiago, Chile)	
'Adapting to Post-March 2011 Japan: <i>A Midsummer Night's Dream</i> adapted by Hideki Noda, directed by Satoshi Miyagi'		2012	神戸市外国語大学英文学会 (於 UNITY)	
<日本語発表> 「'Cool Britannia'から'Broken Britain'へ、そしてヘリテージ文化産業への回帰? 舞台表象、特に Gurpreet Kaur Bhatti 作 <i>Behzti (Dishonour)</i> を中心に」		2011	シンポジウム 4「1990年代以降のイギリス映像文化を読む?」(メンバー 松本朗、大谷伴子、三浦玲一) 日本英文学会第 83 回全国大会 (於北九州市立大学)。	

III 学会等および社会における主な活動	
日本シェイクスピア協会 英国シェイクスピア学会 国際シェイクスピア学会 日本英文学会 PSi 国際パフォーマンス学会 EAJS ヨーロッパ日本学会 AICT 国際演劇批評家協会	学会員
‘Shakespeare North’	準備委員会メンバー < http://www.shakespearenorth.org/ >
	日英、英日翻訳家、演劇・パフォーマンス批評家